

第3回 ユニバーサル社会における MaaS の活用方策についての研究会 議事概要

1. 開催日時・場所

- ・開催日時：令和2年2月17日（水） 9：30～10：30
- ・開催場所：Web 会議

2. 出席者

【委員】

秋山 哲男 中央大学研究開発機構 教授 [座長]
谷口 綾子 筑波大学 システム情報工学研究科 教授
中村 文彦 横浜国立大学大学院 教授
牧村 和彦 一般財団法人計量計画研究所 理事

【オブザーバー】

一般社団法人全国ハイヤー・タクシー連合会
一般社団法人全国レンタカー協会
定期航空協会
公益社団法人日本バス協会
一般社団法人日本民営鉄道協会
一般社団法人日本旅客船協会
認定 NPO 法人 DPI 日本会議
社会福祉法人日本視覚障害者団体連合
一般財団法人全日本ろうあ連盟
公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団
京浜急行電鉄株式会社
東京地下鉄株式会社
東京都交通局
東日本旅客鉄道株式会社
日本航空株式会社
株式会社ゼンリン
株式会社ヴァル研究所
株式会社駅探
ジョルダン株式会社
株式会社ナビタイム
WHILL 株式会社

【国土交通省】

総合政策局安心生活政策課長
総合政策局情報政策課長
鉄道局総務課企画室長
自動車局総務課企画室長
海事局総務課企画室長
海事局内航課旅客航路活性化推進室長
航空局総務課政策企画調査室長
道路局企画課評価室長
都市局都市計画課都市計画調査室長

【事務局】

総合政策局モビリティサービス推進課

3. 議事

3.1. 開会

※事務局より開会を宣言。

3.2. 討議

【ユニバーサル社会における MaaS の活用方策について】

- ・ 決済の連携について、例えば、IC カードによる障害者割引適用については、一部において既に実現されていることから、技術的課題が残っているというよりも、可能な限り、早期に実現にできるように工夫するような表現としたほうが良い。
- ・ MaaS にはデータが重要であり、今後、様々なデータが整備・共有されることは望ましいことであるが、データの整備・更新は、一定のコストが必要であり、それを担う事業者の負担は大きい。そのため、より一層の情報の連携の推進に向けて、事業者等へのデータの整備・更新に必要な支援についても合わせて検討することが重要ではないか。
- ・ 追加された内容のうち、モーター車については、モーター車の有無に関する情報の連携に加え、例えば、やむを得ずモーター車に乗車した場合等に、どのような支援が必要かという点も合わせて検討が求められる。
- ・ バスの乗り方（前乗り・中乗り等）については、その情報を連携するだけでなく、前方又は後方のいずれから乗車しても問題にならないような対応を検討することも重要である。
- ・ 挙げられた情報・データの全てが整備されることが望ましいが、整備を行う優先順位もあわせて示すことが出来ると良いのではないか。障害の種類や個々の特性によって、優先順位は異なることから、一律に決めることは困難と考えられるが、実際に整備を行う際には、一定の指針が示されていると検討しやすいと考えられる。

- ・ 優先順位については、車椅子利用者や視覚障害者、聴覚障害者等の障害種別毎に整理すること等も想定され得る。
- ・ データの整備・更新に当たっては、今後のロードマップ等を示すことも重要である。MaaS を行う地域毎に、整備しやすいデータ項目から整備を進めていくことが考えられるが、例えば、「1～2年後にどのような姿を全体の目標とするか」などを示すべきではないか。
- ・ MaaS のような新しい技術や新しいサービスの登場は、心のバリアフリーを含めて様々な障害が取り除かれていくことが期待される。現状において我が国で実施されている MaaS の実証実験は、障害者を対象としていないサービスも存在しているが、本とりまとめを踏まえ、今後は様々な利用者が利用できるようなサービスになっていくと良い。
- ・ 本とりまとめでは、鉄道やバス、航空、フェリー等の交通手段が検討対象になっているが、MaaS では AI オンデマンド交通等の新たな交通手段も含まれる。そのため、このような新たな交通手段に対し、バリアフリーの観点から留意すべき事項についても今後検討しても良いと考える。例えば、AI オンデマンド交通のほか、決済等の顔認証技術や、自動運転バス・タクシー等における留意点も検討課題として挙げられる。

3.3. 閉会

(以上)